

東京工大クロニクル

主 要 記 事

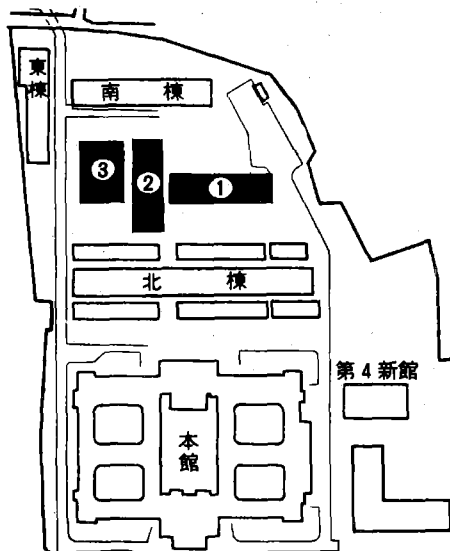
中棟完工に伴う移転状況	1
Top Story in Science	2
クラブ活動紹介	3
無ナンバー車輛を集積処分	6
大学院修士課程一般選考	6
人事異動	7
47年度 科研費	8

中棟完工に伴う移転状況

中棟1号館の東側に新築された中棟2号館(地下1階、地上10階)と中棟3号館(3階)では、現在、移転作業が進められている。移転のおもなものは、従来、本館、南棟、中棟1号館に分散していた電気系三学科の各研究室が中棟2号館の3階～10階にまとまることであって、これに伴って、電気関係の学生実験室は、中棟2号館の1階および中棟3号館の3階に移転する。中棟2・3号館には、このほか、講義室(521～527)と、中棟2号館には、有機材料工学科および機械工学科の一部が移転する。

上記の移転が一段落して、空室の整備が終る、恐らく9月ごろになると、右下のような要領で移転が行なわれる予定である。

このように建物が多くなってくると、本館の南側に北棟があったり、中棟が三つあるのでは、どうもぐあいがよくない。この際、すっきりした、分りやすい名称に変えるか、少なくとも、遠くからでも見える標識をつけることを要望しておきたい。



関連学科など	現 在 位 置	移転予定先	備 考
情報科学科 機械物理工学科 経営工学科 印写工学研究施設 物理情報工学専攻 資源化学研究所の一部 精密工学研究所の一部	本館 2, 3 階 本館, 北棟 北棟 本館, 北棟	本館 1 階 中棟 1 号館 1～4 階 中棟 1 号館 5～6 階 北棟 6 階 南棟 5 階 南棟 2 階 南棟 5 階	新設専攻 長津田移転まで 長津田移転まで

①中棟1号館 ②中棟2号館 ③中棟3号館

色覚のメカニズム

池田 光 男

我々の眼はものの形、明るさ、そして色を認識することができる。これによって多量の外界情報をとり入れている。かかる便利のよい精密な情報伝達・処理機構を解明したいというねがいは近年特に強くなってきた。

色覚のメカニズムの考え方には2つの流れがあって長い間論争が続いた。人間の視覚系というのはもともと脳の一部であって生理学者にとっては未踏の地であるといってもよい。したがってこの機構の研究となるといきおい心理物理学的な手段によらざるを得ないことになる。それでどの心理的現象を重視するかによって意見が分かれてしまったのである。

赤色の光と緑色の光を重ねて投影すると黄色に見えることは誰でも知っている。このようなことを混色と呼んでいる。混色現象の大事な法則に、どんな色でも赤と緑と青の3つの色光の代数和で表わすことができるというのがある。この事実は視覚系の中にそれぞれ赤、緑、そして青に感度の高い3つの異なった組織があると考えようまく説明できる。これがヤング・ヘルムホルツの3色説である。混色実験は光の量的取扱いであるので物理学者らによって大いに発展させられ、今日広く普及したCIEの色度図などを生んだのであるが、彼ら自然科学者の中には当然この3色説を支持する者が多い。

一方、色の見え方を重視するのは心理学者である。20世紀の初頭の人、ヘーリングは次のような観察をした。全て存在する色をよく見ると、色の中には全く混りけのない純粋なユニークな色が4つある。赤と黄と緑と青である。さらに赤と緑、黄と青はそれぞれ反対色である、つまり赤感覚のある所には緑の感覚はない、逆に緑があれば赤はない。同じような関係が黄と青にも成り立っている、と。このような観測を基にしてヘーリングは大変大胆な1つの色覚説を提唱した。視覚系には色を認識するに2種類の組織がある。1つは赤対緑の組織であって、これが興奮すると赤か緑のどちらか一方のみの感覚を与える。赤と緑に相当する光が同時に入ってきて興奮の打ち消し合いが起きて結局残った強い方の感覚だけが生じる。もう1つは黄対青の組織でやはり赤対緑の組織と同じように働く。これがヘーリングの反対色説である。この説は色の見え方を非常にうまく説明し心理学者の間には支持者が多いが、残念なことに皆が納得できるような実験に欠けて

自然科学の人達からはともすれば軽視される傾向にあった。

これら2説の顕著な差は黄色の説明において現われる。3色説はそれを赤感覚と緑感覚の協調の結果として説明するが、反対色説は逆に赤感覚と緑感覚の打消し合いの結果であると説く。したがって両説は長い間鋭く対立してきたと言う訳である。ところが非常に嬉しいことにこの対立が最近和解の方向にあるのである。それはエレクトロニクスの技術を基礎にした電気生理学の貢献である。

動物の網膜に微小電極を入れて光に対して発生する電気的レスポンスを取り出すことの可能であることを示したのは1967年ノーベル賞を受けたハートラインの功績であるが、この分野の近年の発展は全くすばらしい。1953年頃スヴェティチンという人がカリブ海からとった魚の網膜に電極をさし込んで光に対する応答を調べていた所、奇妙な細胞を発見した。それは単一の細胞にもかかわらず、ある波長域の光には正方向の応答を、他の波長域の光に対しては負方向の応答を出すというものである。さらにこれらの波長域が赤領域と緑領域である細胞と黄領域と青領域である細胞の2種類あることも分った。これはまさにヘーリングの反対色説の立証ではないか。

しかし電気生理学の成果はこれだけでは終らなかった。1967年には我が国の富田らが先端直径 0.1μ 以下の超微小電極をコイの網膜の受容体にさし込み、応答を記録することに成功した。そして沢山の受容体の分光感度を測定した所受容体の種類は3群に分けられることを見出した。すなわち赤、緑、青にそれぞれ感度の高い受容体である。ヤング・ヘルムホルツ説を証明したのである。

となると人間の視覚系にはヤング型のメカニズムもヘーリング型のメカニズムも両方共存存在すると考えられるのであって心理物理学での実験の仕方の如何によってある時はヤング型の現象が表面に出、またあるときはヘーリング型の現象が出てくるという訳なのである。もともと魚やコイの目を直ちに我々人間の視覚系にあてはめるのはどうも……という意見もあろう。電気生理の対象はもちろんもっと高等な動物へも向けられている。そして猿にまで至っている。猿なら人間と同じように行動学的な実験、心理物理学的な研究も相当可能であるので人を対象にした実験結果を一般の動物を対象にした電気生理学的結果との橋渡しをしてくれるものとして大いに期待できよう。この夏日本で開かれる国際心理学会には猿の行動学的且つ電気生理学的研究を精力的に続けているカリフォルニア大学のド・ヴァロア教授も出席される予定なのでその講演を楽しみにしている次第である。

(印写工学研究施設 助教授)

クラブ活動

夏空に飛ぶ

航空研究部

航空研究部がグライダー活動を始めてから今年で満6年になる。毎年夏季休暇には、埼玉県妻沼町の利根川畔にある日本学生航空連盟妻沼滑空場に合宿し、操縦技倆の錬磨にはげむのが例となっている。今年もまた夏雲を追って、7月22日より28日まで、炎天のもと、汗と泥にまみれながら、大自然に挑む若人達の逞しい活動が展開される。目に見えない空気の流れを探り、湧然と湧き上る積乱雲をバックに、陽光にきらめく翼をひるがえして音も無く飛ぶグライダーの姿はまことに美しい。

この6年間、毎年30名近い部員を擁し、先輩達の苦斗の後をうけて部員達の意欲も年を追って高まり、操縦技倆も着々と向上、すでに30分近い滞空記録は4年生部員のすべてが経験し、1時間以上の滞空時間、2000m、の高度を獲得した学生もいる。

吾が国の現情では、学生が何等かの航空活動をするとなれば、先ずグライダーを通して航空工学の基礎を体得し探究することがもっとも現実性のある方法であるようである。自ら体験することで対象とするもの、本質を把握し、知識の肉付けをおこなったうえ、更に見識を深めてゆく。こういった思考の上にたって広く宇宙、航空技術に興味を持った学生達が集い誕生した航空研究部が、先輩達の血のにじむような努力と、関係各方面の温い理解と援助を得て、たゞ1機の愛機複座型ソアラ、J A 2075号機を媒介として、着実に航空技術の基礎的な知識を身につけ、大空への限りない夢とロマンを追って、この夏む力を合せて実りある合宿訓練を繰りひろげることであろう。

"つばめ、は歌う

シュワルベン・コール

男声合唱団シュワルベン・コールは蔵前記念館で第一声を発して以来、今年で十四年目を迎えます。その間多種多様な人達が入部し、卒業していききましたが、おそらくこの人達も、この東工大でのともしれば無味乾燥なあじけない生活に陥りやすい中で、合唱することによって、合唱を共にする仲間をとおして、人間としての喜び、美しさを感じ取ったことでしょう。

今年も前途有望な新入生が十数名入部し、部員総数約60名を数え、積極性豊かなクラブとして合唱を追求していくつもりです。1年の活動は、夏に国立工業大学演奏会、冬に定期演奏会と、この2つを柱としてその他、都の合唱祭への参加など幅の広い活動を行っています。国立工業大学演奏会とは、室蘭工業大学、名

古屋工業大学、九州工業大学、そして東京工業大学と、4つの大学の合唱団が集まって行う演奏会で、今年は7月14日、北海道室蘭で行います。日本の北から南から合唱を愛する者が1つの場所に集まって、歌をとおして青春の喜びを分かちあう、なんとすばらしいことでしょう。また、定期演奏会は12月12日、東京は芝の郵便貯金ホールで行う予定です。

クラブ成立以来御指導願っているヴォイストレーナーの中村博之先生、指揮者の北村協一先生、そして1昨年我々の常任指揮者としてお迎えした柳川直則先生と、3人の個性豊かな指導のもとに、より高度な心ある合唱を、と、我々部員一同努力を続けています。

関東リーグ戦 5部に昇格

硬式テニス部

関東リーグ戦は3月下旬より4月中旬にかけて東工大緑コートなどで行われ、ポイントの差で惜しくも優勝は逸したが、4月23日の玉川大学との入替戦では(6-3)で破り、5部に昇格し、加盟校の中でほぼ中堅の位置を占めることになりました。

部について少し紹介しますと、皆さん御存知の本館前のコートが使えなくなりましたので、線路を越えたロマンス坂わきに新しく4面作っていただき、ここで練習していますがこのコートは実に見晴らしがよいだけに風当たりも強く、苦勞しています。

定期練習日は水曜と土曜で、日曜は特別練習や試合の日に当てている。

部員の構成は現在3年生8名、2年生14名1年生17名計39名で3、4年前の部員数、百数十名にくらべると非常に少なくなっている。最近のテニス人口の急増の波はまだ工大までおしよせてきていないようである。

今年の予定は7月から8月にかけて夏期合宿、理工系個人トーナメント、三工大定期戦、10月に関東学生新進戦、理工系リーグ戦、12月下旬、3月上旬の合宿で腕を磨き、春の関東リーグ戦に備えることにしている。

満天の星

山岳部

山岳部の歴史は相当古く、東京工大スキー山岳倶楽部として発足したのが昭和8年頃である。約40年を経た現在、部員数は11、それにOBである大学院生3名が参加して活動している。一年間の山行の計画は、5月の新入部員歓迎登山、7月の夏山合宿、10月の秋山、11月の富士山トレーニング、12月のスキーと冬山、3月の春山となっており、四季を通じ山行を楽しんでい

クラブ活動

る。その行先も北アルプス、南アルプス、上信越、東北、北海道等と広範囲にわたり、今夏の夏山合宿は約2週間の予定で剣岳での雪上訓練、岩登りと縦走を行う。その後O Bの山行に合流して満天の星の下で現役とO Bが話し合う機会も計画されている。これを機会に多くの方の入部を歓迎いたします。

山岳部はその活動の性格上、常に山での事故ということに直面せざるを得ず、過去にも何回かの遭難事故を起し御家族の方々を始め、多くの方々に多大の御迷惑をおかけしたことを心からお詫びすると共に、深く反省し、部員、O B共々二度と起きぬよう留意努力しております。

終りにあたり、多くの方々に御援助いただいた1970年に行なったヒマラヤ遠征の報告書が大変おそくなりましたが、近いうちにまとまる予定ですので、ヒマラヤ遠征報告については別の機会に御紹介します。

大学に音楽を

混声合唱団コールクライネス

混声合唱団コールクライネスは現在(昭和47年5月)実団員数99名の大会合唱団である。常任指揮者、加藤磐郎先生、ボイストレーナーとして篠崎義明、中村妙両先生、ピアニスト、佐藤邦子先生は商業ベースをはなれ、団員と一緒にハーモニーを求め、団員を指導激励しておられる。O V会(卒業生)会員も火、土曜日の練習日にはよく来られ後輩の指導にあたり、また自身も練習に励んでおられる。

きびしい練習から得るものは調和であり、形而上下を問はぬ人間としての収穫であり、学問への意欲である。地方演奏会も今年は岡谷で行なった。定期演奏会も今年で7年目になろうとしている。これらの演奏会の目的は、どのような立場の人々にも、目の見えない人、得意の頂上にある人、歎きの底にある人、耳のきこえない人々にさえも、技術的には商業ベースの達人にはかなわないまでも、学生としての真摯な態度で人々の心の琴線にふれる何かを合唱を通してくみとってもらふことであり、同時に平素の練習結果をほめてもらいたいためにやってきている。

ただ一つの不満は工大に音楽の場がないことである。運動場、体育館、テニスコート、武道館、食堂などの大学施設と同等に大学に音楽をたのしむ場としての、防音設備の完備したホール(できればミュージックホール)を建設してもらいたい。定期演奏会もそこで行なえるような、また一流の音楽家を招いて大学にすばらしい音楽を導入することのできるような場所にしたい。全学の皆さんの強い御賛同を待たいものと思っている。

スピーチ・コンテストとJ E T

E S S

E S Sは現在部員数50名、定期的に英語による討論など活発な活動が続けているが、5月28日には本学で『アサヒ・イブニング・ニュース』社、『エンサイクロピディア・ブリタニカ』社後援のもとにスピーチ・コンテストを行ない、参加大学計11校、応援者が第4新館の大教室を満す盛況で、熱気あるスピーチが次々に披露され、本学化工3年生金子正道君が入賞した。

夏は本学E S Sが中心となって組織しているJ E T (Joint English Theatricals) 活動の一環として、青山学院女子短大と合同キャンプを行ない、11月26日北区公会堂で開催される英語劇発表会に備え、全力投球でトレーニングに励む予定である。なお、現在J E T (英語劇連盟)には、本学、青山女子短大のほか、東京女子短大、教育大、お茶の水大、東京医歯大、電通大、東洋英和女子短大、それぞれのE S Sが加盟している。

I A E S T E 研修生出発

今年度からイアエステ研修生を乗せて欧州に向かうチャーター機は2便となり、第1便は6月28日、第2便は7月20日に羽田空港より出発する。日本からの研修生は総数103名となり、このうちには本学からの研修生12名が含まれている。帰国のチャーター機は第1便が9月2日、第2便が9月19日羽田到着の予定になっている。

研修生氏名	学 科	学年	研修先国名
幅 正夫	建 築	4	ドイツ
堀 進	制 御	3	"
三野 薫	機械物理	4	"
鈴木 純夫	杜 工	4	"
柿内 幸夫	経 営	3	オランダ
金子 正道	化 学	3	"
金子 潔	建 築	M 2	スウェーデン
萩原 孝英	機 械	4	ポーランド
石川 洋	電子物理	4	イギリス
松島 昭	建 築	4	スイス
伊藤 直人	機械物理	M 1	韓 国
村上 俊正	"	4	"

研修期間中日本での行事としては8月9～12日霧ヶ峰高原でのイアエステ・デイズが計画されている。

なお来年度研修生の募集申込み締切は10月21日となっている。

クラブ活動

計測旅行

自動車部

自動車部では、恒例の夏休みの長期計測旅行を計画している。今回でこの計測旅行が丁度第20回目を迎えるとあって部員一同大いに張り切っている。昨年、一昨年と2年続けて東北、北海道方面へ向って出発したが、今年は南へ向っての計画となった。

コースは 東京→関西地区→淡路島→四国（高知一足摺崎）→九州（宮崎一佐多岬一長崎一阿蘇）→山陰→北陸→長野→工大、全走行距離 4,000km余 全行程 22日間の予定である。

参加車輛はトラック1台、乗用車5台が予定され、3年生を中心に現役の部員20名が参加する。この第20回計測旅行では、長期間集団での運転を通じ安全運転に対する認識を深め、参加者の相互関係を深めるという目標をかかげ、つぎの計測内容をとりあげた。道路改良状況調査（各地の路面状態を段階的に分けそれぞれの運転の難易について検討する）、トランジスタグニッションの効用、オイルの劣化、各種添加剤の効果、エアクリーナーのよごれ、故障調査、なお全行程の最終日には大学院生や先輩を含む自動車部OBの夏のドライブ、（長野地区）との合流も考えられている。

この計画で最も気づかわれている点は天候の問題である。

長期天気予報によれば九州方面は暑い夏になりまた台風の数も多いといわれており、長期走行中悪天候に悩まされることもあるのではなかろうか。

ジョイント・コンサート

管弦楽部

東工大オーケストラは現在年に夏冬2回定期演奏会を開いている。これまで東京文化会館、共立講堂、日比谷公会堂などで演奏会を開いているが、今年も7月2日に杉並公会堂でブラームスの交響曲その他を演奏する予定である。例年、夏は聖心女子大とのジョイント・コンサート、冬はわれわれ東工大だけでコンサートを行なっている。また、しばしば地方公演も行なうが、来年の3月には中国地方や九州地方への演奏旅行も計画している。

ここ数年、年ごとに考え方の異なるメンバーが入ってきているために、これまでの「ヘートーベン、ブラームス、チャイコフスキーの工大オケ」のイメージもかなり変わりつつある。

われわれのオケの最大の悩みは、弦楽器奏者が少ないことである。昔は管楽器奏者が少なくて困ったようだが今は反対である。100人でオーケストラをつくる

とすれば、弦は70人ほどいるのが理想的なのだが、わが東工大オケでは管楽器奏者の方が多少上回る状態である。もっとも、これは他の大学のオケはもちろん、プロの世界でも世界的傾向だから仕方がないかも知れない。

昔のオケに比べると相当腕も上って、かなり聴きごたえもあるという人もいるが、元来アマの音楽は他人に聴かせるというよりは、お互いが一しょに奏いて楽しむものである。大いに参加してほしい。

関東リーグ戦を目指し

軟庭部

本学の軟式庭球部がはっきりした部の形を取ったのは昭和25年度からと云われ、それから22年になり、ようやく伝統らしいものが出来つつあるように思う。理工系の大学の運動部は衰退の方向にあると云われているが、軟庭部の宣伝が効を奏し年々新入部員が増加している。現在女子4名を含む54名が、グラウンド横のテニスコートで汗を流して活躍している。

どの運動部も同じであろうと思われるが、関東リーグ戦が最重点の試合である。昭和44年度春の7部から2年後に5部となった。今年は新旧選手交代の時期にあり、苦戦が予想されたが結果は、少差で第2位、我々でも相当やれると自信が出てきた。現在4部への昇格を目標に練習をつづけている。

第2のビッグゲームである関東理工系リーグ戦では、この6月に優勝し、昨年秋につづいて連続優勝の栄冠を勝ちとっている。

お互の人間関係を高める場である合宿は、レギュラー合宿の他に初心者も含めた2回の全員合宿と1、2年合宿があり、最終学年まで部生活を楽しめるよう全員で努力を重ねている。それが裏目に出て、追コンの時に差上げるトロフィー代がかさむことは、うれしいなやみである。

東工大唯一のビッグバンド

軽音楽部ロスガラチエロス

我校のクラブを見渡してみても、底抜けに楽しいクラブは我々軽音楽部ロスガラチエロスをおいて他にないでしょう。特に音楽好きな方には体でのれるミュージックがふんだんにあります。ラテン、ロック、ジャズ、スタンダードナンバーとレパートリーは幅広くあらゆる音楽分野に渡り、今後も増々発展していくのが我々クラブである。現在主力メンバーは23名。楽器の構成はサクソ5本、トロンボーン3本、トランペット4本他にドラム、ベース、ギター、ピアノ、パーカッション

ンなどがある。新人も旧人も、一度楽器を手にしたことがある人も、全く初めての人も一度部室の戸を気軽にトントンとたたいてみませんか。貴方にとって何か新しいものがドアを開いたとたん、生れるかもしれません？それがなんであるかは貴方が肌で感じることでしょう。

学連一部進出を目前に

ヨット部

ヨット部は学連2部の最上位にあって、来年は一部に還りたいと思っている。適当な基地がないので、春秋は葉山、夏は館山を基地にして練習しているが、練習地が遠隔地なもの一部進出の困難な原因といえる。

今年からA級デインギーに代って、470型が学連の正式艇に替ったばかりなので、他学の練習不足につけ込んで、一部進出はおろか、優勝をねらっている。フランス製のスピナーカも近く手に入る予定で部員一同夏の合宿を張切って迎えるところである。

無ナンバー車輛を集積処分

近頃、本学構内に乗り入れる車輛利用者の増加に伴ない、構内の交通がいろいろと支障を生じている。交通安全委員会は構内における交通に関する安全対策を審議するため、数回にわたり構内の交通事情を調査したところ、多数の無ナンバー車が駐車場、その他に放置されていることが判明した。これは昨今の駐車場の不足を増す原因の一つとなっている。また構内の美観のうえからも早急に撤去する必要がある、過去10回にわたり無ナンバー車輛の実態調査を実施し再三にわたり撤去するよう警告してきたが依然放置されたままになっているので、本年5月17日に無ナンバー車輛の集積処分をする旨告示するとともに、一部集積処分を保留したもの以外は5月22日にテニスコート際の空地に集積を完了した。

なお、これらの集積した無ナンバー車輛については後日構外処分をする予定である。(交通安全委員会)

昭和48年度

大学院修士課程一般選考

昭和48年度の大学院修士課程学生の一般選考は、8月1～10日に願書を受付ける。収容予定人員460名のうち、6月30日学内選考による入学予定者205名が内定しているの、今回の一般選考ではその残りの収容予定人員を選考することになる。

したがって、学内選考を行なわなかった数学、制御工学の各専攻では予定人員のすべてを一般選考で定めることとなり、学内選考をすでに行なった。専攻分野では学内選考による入学予定者をのぞいた人員につき一般選考で決めることとなる。

学力検査 8月24～26日

健康診断・口頭試問受験

資格者発表 9月9日

健康診断 9月18日

口頭試問 9月19日

合格者発表 9月29日

専攻名	募集人員	生産機械工学	約19人
数 学	約12人	機械物理工学	約18人
物 理 学	約14人	制 御 工 学	約18人
化 学	約20人	経 営 工 学	約18人
応 用 物 理 学	約18人	電 気 工 学	約58人
金 属 工 学	約19人	電 子 工 学	
繊 維 工 学	約15人	電子物理工学	
無機材料工学	約97人	土 木 工 学	約18人
化 学 工 学		建 築 学	約32人
合 成 化 学		社 会 工 学	約18人
高 分 子 工 学		原 子 核 工 学	約 8人
応 用 電 気 化 学	約36人	物理情報工学	約22人
機 械 工 学		計	約 460人

共済組合「海の家」開設

本年も引続き共済組合「海の家」を開設しました。宿泊、日帰りを問わず大いにご利用下さい。

○場 所 千葉県岩井海岸（千葉県安房郡富山町高崎1,290-20）

○期 間 7月1日～8月31日

○利用できる者 本学共済組合員およびその被扶養者に限ります。

申込等詳細は経理課共済掛（内線3018番）へ。



海老原名誉教授の 死を悼む

本学名誉教授 海老原敬吉氏は、6月8日病氣療養中のところ死去されました。

海老原名誉教授は明治31年生れ東北大学物理学科を卒業後、理研助手、本学助教授を経て昭和14年教授となり、昭和29年より33年迄精密工学研究所長を併任され、昭和33年停年退職されて名誉教授となった。

同名誉教授は昭和43年4月29日勲二等旭日重光章を授与されている。

共済組合 連絡協議会委員選出さる

昭和47年度共済組合東京工業大学支部福祉事業に関する連絡協議会委員の選出が去る4月20日～5月13日に行われ、昭和47年6月1日付をもって委嘱された。委嘱期間は昭和47年6月1日より昭和48年3月31日迄です。委員は次の通りです。

出 納 役	木下 四郎
事 務 局	川崎 晃
	前原 好美
教 務 部	渡部 丑美
理 学 部	福田 和子
	小嶋 のぶ
工 学 部	高橋 誠
	太田京一郎
	久保田 宏
附属工業高等学校	水谷 良夫
資源化学研究所	服部 義雄
精密工学研究所	井上辰一郎
工業材料研究所	秋山 豊
原子炉工学研究所	井関 孝善
附属図書館	向後 定男

マイクロフィッシュカメラ を設置

図書館では文献複写サービスとしてこれまでゼロックス、マイクロフィルム（ロール）の撮影および引伸し等を行ってきました。このたび新たにマイクロフィッシュ撮影機が本館地階34-35号室に設置され、複写サービスに加わるようになりました。

ご存知と思いますが、マイクロフィッシュはカード状のマイクロフィルムです。大きさはハガキ大（105mm×148.75mm）のシート状で1シートに6段×12行＝72コマの撮影ができます。しかし1段目をタイトル、年、巻、号等のスペースに使用すると5段×12行＝60コマが標準となり、60ページ以内の論文は1シートに収まるわけです。

従来のマイクロフィルム（ロール）と比較しますと、次のような利点があります。

①タイトルが肉眼で見えるので検索が容易。

②カード状なので文献、資料の保管が便利。

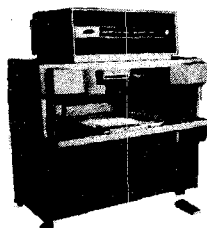
③郵送や携帯に便利。

したがって大量の資料（文書・雑誌類）をタイトルを入れて撮影することにより、保管スペースの大巾な節約が図れるなど多用途の利用方法が考えられます。

なお、詳細な点は附属図書館運用掛（内線2096）へお問合せ下さい。料金は次の通りです。

マイクロフィッシュ複写料金

区 分	学内料金	学外料金
撮影費(1シート)	270 円	310 円
タイトル撮影費(1件)	10 円	10 円



47年度 科 研 費

本年度の文部省科学研究費補助金は、6月上旬内定した。本学関係分は総計 131件、272,370千円で、その内訳は次の通りです。

(件数) (交付額・千円)

一般研究(A)

新 規	3	50,800
継 続	2	11,170

一般研究(B)

新 規	16	70,110
継 続	2	4,900

一般研究(C)

新 規	31	34,870
継 続	2	1,780

一般研究(D)

奨励研究(A)	12	4,330
---------	----	-------

奨励研究(A)

特定研究(1)	36	8,200
---------	----	-------

特定研究(1)

新 規	3	44,860
-----	---	--------

特定研究(2)

新 規	3	12,000
-----	---	--------

試験研究(1)

新 規	3	3,770
-----	---	-------

継 続	2	2,400
-----	---	-------

試験研究(2)

新 規	9	11,570
-----	---	--------

継 続	3	2,100
-----	---	-------

総合研究(A)

新 規	3	7,010
-----	---	-------

継 続	1	2,500
-----	---	-------

合 計	131	272,370
-----	-----	---------

昭和47年度 学 科 主 任

〔理学部〕

数 学 科	小沢 満
物 理 学 科	小口 武彦
化 学 科	桂 敬
応用物理学科	佐藤 伸
情報科学科	国沢 清典
共通科目	柳 武敏
天然物化学研究施設	吉村 寿次

〔工学部〕

金 属 工 学 科	中村 正久
有機材料工学科	礪波 宏明
無機材料工学科	山田 久夫
化 学 工 学 科	越後谷悦郎
合 成 化 学 科	石川 延男
高分子工学科	原 伸宜
電 気 化 学 科	関根 太郎
機 械 工 学 科	片山 功藏
生産機械工学科	一色 尚次
機械物理工学科	森 康夫
制 御 工 学 科	竹中 俊夫
経 営 工 学 科	木暮 正夫
電 気 工 学 科	深尾 毅
電 子 工 学 科	川村 光男
電子物理工学科	榎本 肇
土 木 工 学 科	渡辺 隆
建 築 学 科	吉見 吉昭
社 会 工 学 科	菅原 操
教 育 群	坂元 昂
人 文 社 会 群	永井陽之助
外 国 語 群	宮本 陽吉
保 健 体 育 群	石田 俊丸
印写工学研究施設	辻内 順平

ユネスコ国際大学院

応募受付

本年10月から開講される第8回ユネスコ国際大学院研修講座（化学および化学工学関係）への応募者は、入学定員14名に対し現在までに160名を受付けている。

応募者の内訳はインド、パキスタン、エジプト、ポーランド、セイロン、イラン、韓国、ルーマニアなど約30ヶ国余にわたっている。

合格者決定は7月中旬の予定である。

東京工大クロニクル No. 40

昭和47年7月6日

東京工業大学広報室 発行

東京都目黒区大岡山2-12-1

Tel.(726)1111 内線 2033